

会 議 録

会議の名称	第4回 戸田市自治基本条例推進委員会
開催日時	令和5年1月17日(火) 午後7時00分～午後8時00分
開催場所	戸田市役所5階 大会議室A B
委員氏名	<input checked="" type="checkbox"/> 横山 誠 <input type="checkbox"/> 岩本 恭幸 <input type="checkbox"/> 木本 篤史 <input type="checkbox"/> 芳賀 良 <input type="checkbox"/> 細井 翔太 <input checked="" type="checkbox"/> 宮澤 正 <input type="checkbox"/> 小野塚 加代 <input type="checkbox"/> 宮澤 浩二 <input checked="" type="checkbox"/> 峯岸 義雄 <input type="checkbox"/> 矢澤 青河 <input type="checkbox"/> 牧野 秀平 <input type="checkbox"/> 長尾 愛子 <input type="checkbox"/> 松下 啓一 <div style="text-align: right;"> (<input checked="" type="checkbox"/> 委員長 <input type="checkbox"/> 副委員長) (<input type="checkbox"/> 出席 <input checked="" type="checkbox"/> 欠席) </div>
説明のために出席した者等	
事務局他	市民生活部協働推進課 峰岸課長、川原副主幹、秋山主任
議 題	(1) 答申について (2) その他
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	別紙のとおり

(会議の経過) 1 / 17 第4回戸田市自治基本条例推進委員会 会議録

発言者	議題・発言内容・決定事項
	<p>1 開会 委員の紹介</p> <p>2 挨拶 横山委員長あいさつ</p> <p>3 議題</p>
委員長	<p>議題(2) その他</p> <p>本日の会議時間と内容を考え、次第の内容を一部変更して進めていきたい。まず初めに議題(2)その他についてご報告いただき、その後議題(1)答申についてグループごとのディスカッションに移りたいと思う。</p> <p>では、まず昨年11月8日に実施した啓発活動について当日参加された副委員長からお話しいただきたい。</p>
副委員長	<p>11月6日「とだ環境フェア」にて、啓発活動を有志4名と事務局2名の併せて6名で実施した。来場者にマンガパンフレットと、リスのイラスト説明が入ったエコバックを午後2時過ぎまでに300セット全て配布した。幼児から高齢の方まで幅広い年代の方が来場した。</p> <p>中学生の出展団体が「エコバックをください」と言ってくれるなど、リスのエコバックが好評だった。啓発活動をすることによって、少しずつ自治基本条例の意識が広がればと思う。</p>
委員長	<p>私も参加させていただき、直接市民の皆さんや出展者と協働のまちづくりについてお話する機会があった。大切なことだと改めて感じた。今後もこういった活動を継続していければと考えている。</p> <p>次に3月に予定されているさくらパルまつりの啓発活動について事務局より説明願いたい。</p>
事務局	<p>配布資料3ページ及び別紙【参考資料1】次回の啓発活動について説明。今回は、希望があればブースを設けることも可能である。啓発</p>

	<p>活動は任意参加となるが、少なくとも4名程度の参加の場合に実施可能であるため、積極的な参加をお願いしたい。</p>
委員長	<p>事務局からの説明について、委員の皆様からご質問はあるか。 4名程度参加者が集まれば可能となるため、何人が参加可能か確認したい。人数が少ないようであれば、またの機会としたい。</p>
委員	<p>ブースでの活動は4名いなくても可能か。</p>
事務局	<p>ブースを出す、出さないに関わらず、4名は参加していただきたいと考える。</p>
委員長	<p>では、現時点で参加が可能な方は挙手をしていただきたい。</p>
委員	<p>《挙手》 3名</p>
事務局	<p>午前中だけ、午後だけでも参加できたらお願いしたい。今回は3月25日の1日だけで、時間は10時から15時までの予定である。</p>
委員長	<p>行けるかもしれないという方はいないか。午前だけ午後だけ、最初の1時間だけでもご参加いただきたい。</p>
委員	<p>《挙手》 追加1名</p>
委員長	<p>では、さくらパルまつりでの啓発活動を実施するというところでよろしいか。</p>
委員	<p>《異議なし》</p>
委員長	<p>施設との調整が必要なため、ブースを出すか出さないかもこの場で決めたい。まず事務局の意向を伺いたい。</p>
事務局	<p>前回のようにブースを出さず、出入口にて啓発品を配布するとなると、もれなく来場者に声掛けができるメリットがあるが、それ以上の話ができないという点がデメリットである。ブースを出す場合は、近くに来た来場者と話ができることがメリットであるが、すべての来場</p>

	<p>者に啓発品を渡すことは難しいという点がデメリットとなる。</p> <p>ブースを出す場合は、リーフレットを拡大して掲示し、リスのイラストをぬりえとして配布する程度であれば、皆様のご負担はなく準備可能と考えている。</p>
委員	<p>昨年さくらパルまつりの啓発活動に参加した際は、4名で啓発品を渡したが、1~2名だけでもれなく配布できた。4名でブースも出せば、説明もでき、配布することも可能だと思う。</p>
委員長	<p>私の記憶では今までブースで実施したことはなかったと思う。当日の参加者に過度な負担はかけないようにしたい。</p> <p>では、ブースを出すか、出さないかのご意見をいただきたいと思う。どちらか挙手をお願いしたい。</p>
委員	<p>《挙手》 全員がブースを出す、という意見</p>
委員長	<p>では今回はブースで出展するということにしたいと思う。皆様のご協力をお願いしたい。今後参加可能な場合は事務局までご連絡いただければと思う。</p>
委員長	<p>それでは次に自治基本条例啓発リーフレット案についてワーキングメンバーよりお話いただきたいと思う。</p>
委員	<p>資料4ページにあるとおり、有志6名と計2回のワーキング会議を行い、「市民が思わず手に取りたくなるデザイン、知りたい情報が書いてあり、取っておきたいと思うリーフレット」というコンセプトで意見を一から出し合い制作した。</p> <p>当初はA4三つ折りの予定だったが、内容などを考えていく中で、B4二つ折りでリスのイラストを大きく目立つようにし、どのような行動が市民活動、まちづくりに参加しているということなのかを段階的に具体例を載せることで、まちづくりが気軽で身近なことであることが伝わりやすいのではないかと意見にまとめ、このような形となった。また、具体的に行動を起こそうと思いついた時に、すぐに問い合わせができるようにQRコードをいくつか載せた。</p> <p>意見は資料に記載した内容以外にも沢山あり、第2回ワーキング会議は結果的に約3時間に及んだが、とても有意義な時間となった。</p>

	<p>今回参加し、伝えるためにはデザインの力が重要であると知った。作成に携わり大変勉強になった。三者協働のきっかけとなり、助けとなればと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>コンセプトに書いてあるとおり、「市民が思わず手に取りたくなるようなデザインで、今すぐ活用しなくても、取っておきたいと思うリーフレット」を目指して参加し、大変勉強になった。これで市民活動に参加していただける方がひとりでも増えたらよいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>皆様もおっしゃっているように、なるべく手に取りやすく、目を引くようなもの、かつ手元に残してもらえるようなものがないかと思った。リーフレットがやわらかい感じに仕上がったので、まちづくりに参加する方達の敷居が低くなればと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>(事務局より、前期の推進委員で今回リーフレット作成ワーキングに参加いただいた方からのコメントを代読)</p> <p>ワーキンググループの仲間に入れて頂きありがたかった。時間も忘れるほど有意義な時間となった。トートバックのリスのモチーフをリーフレット作成に採用していただき今までの委員の皆様の思いを繋ぐことができ本当によかったと思う。</p> <p>素晴らしいリーフレットが仕上がることを楽しみにしている。</p>
<p>委員</p>	<p>時間も忘れる位の非常に有意義な時間となった。まだ試作段階だが、仕上がりを楽しみにしている</p>
<p>委員</p>	<p>今回のリーフレットは、なかなか難しい点もあったが、ワーキングチーム内で意見が飛び交い、段々とイメージが共有できた。今までと違ったものが完成したのでよかったと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>ワーキンググループの皆様には感謝している。よく考えられた内容で、とても素晴らしい出来栄えだと思う。リーフレットのQRコードを実際に読み込んでみた。情報満載で非常によいツールになるのではないかと思う。</p> <p>今後の流れについて、事務局より説明いただきたい。</p>

事務局	<p>資料4ページのとおり、この後市役所の担当部署に最終確認を行い、3月上旬に完成し、3月末に市内公共施設のラックに設置予定である。</p> <p>リーフレットの掲載内容に関わる担当部署には一度確認済みで、修正追加ができるものは、既に反映している。参考資料2のリーフレット案の裏表紙の赤文字部分など、これから調整が必要な部分もあるが、効率的に進めていくためにも、このリーフレット案で大筋よいか、また、今後の微修正について、ワーキングメンバーと事務局に一任いただけるかの承認をいただきたい。事前に皆様へメールしているが、不備や修正などご意見があれば、教えていただきたい。</p>
委員長	<p>リーフレットの不備や修正など皆様からご意見はあるか。</p>
委員	<p>リーフレットの中面の、STEP3「市民活動団体で活動」を3行から2行に調整できればと思う。イラストのずれについても修正できればと思う。また、リーフレットの後ろ部分のQRコードが8個あり、修正イメージの案があるので後で示したい。</p>
委員長	<p>他にご意見はないか。では、このリーフレット案を承認することとしてよろしいか。また、今後の調整などはワーキングメンバーと事務局に一任ということよろしいか。承認いただける場合は拍手をお願いしたい。</p>
委員	<p>《全員拍手》</p>
委員長	<p>パンフレットについては承認することとする。このリーフレット案で発行の準備を始めていただきたい。</p>
委員長	<p>次に、Zoomを利用した研究会の実施について私からお話したい。</p> <p>前回、資料5ページと参考3の会議録のとおり、12月15日に「Zoom de まちづくり」と題し、小野塚委員が発題者となり現状の市民団体活動の説明と課題などをお話いただき、その後、参加者より感想や質問、提案などを行った。</p> <p>次回は2月中旬頃に実施したいと考えている。委員で町会長でもある宮澤委員に町会の現状や課題についてお話いただき、進めていきたいと思う。詳細は事務局経由で連絡するので、積極的な参加をお願いしたい。</p>

	<p>議題（１）答申について</p> <p>委員長 それでは議題（１）答申について進めていきたいと思う。進め方について、事務局より説明願いたい。</p> <p>事務局 委員長、副委員長、松下委員との事前協議の結果、前回の皆さまからのご意見を４つのテーマに分け、それぞれ具体性のある内容にするために議論してはどうかということになった。 そこで、今回は２グループに分かれ、意見交換していただきたい。</p> <p>委員長 特に進め方について意見がなければ、このまま話し合いを始めてもらいたい。</p> <p> 《答申の骨子の４つのテーマについて、２グループに分かれて話し合いを行う》</p> <p> （グループ１の内容）</p> <p>委員長 資料にある４つの骨子は、自治基本条例の条文の内容と合致している。これを実現することが、自治基本条例を具体的に進めていることと、イコールだと思う。 皆さんが出してくれた意見は条例を下支えしている気がした。更にご意見をいただくことで、広がりがあってよい答申になると思う。</p> <p>委員 ４つの骨子の中の③つながる「場」課題共有の「機会」、④つながる「場」協働の「機会」について、戸田市ボランティア・市民生活活動センター（以下、「T O M A T O」という）で活動している団体は自治基本条例に則っているが、そのお墨付きのようなものがあると、他の団体もそれを目標にやっといこうと大きな声で言えると思う。指標があればよいのではないか。 例えばコロナ感染拡大予防の対策を行っている店に対して認定ステッカーがあるが、それと同じように自治基本条例の項目をクリアしている団体であるという証があると、自信をもって頑張れるのではないか。何項目か内容をクリアしていると認定してもらえそうな仕組みを作るのはどうか。</p>
--	---

委員長	参加者のインセンティブとして、団体に対してまちづくりを担っているということを第三者が認定するしくみがあるとよいだろう。団体としてはうれしいと思う。
委員	活動している団体は、自分たちの活動が市民活動であるという認識がないので、第三者が認定する仕組みがあるとよい。
委員	認定する人、組織はどこが妥当か。
委員	認定することで、上と下の関係ができてしまうのもよくない。認めてあげるとか上からいうのではなく、何か良いしくみがあればと思う。
委員長	例えば、三ツ星レストランは認定されると権威があるかのようになっているが、実際は認定されたことで集客が上がったなど、誇りになっているのではないか。
委員	ボランティア団体や一般の企業にも認定されるようなことがあると、イメージがよくなって、プラスαで箔がつくのではないか。
事務局	厚生労働省で「くるみん認定」がある。「子育てサポート企業」であることを認定するしくみである。上からではなく、基準を満たしているから認定される仕組みで、プラチナなど段階がある。
委員	活動している人は良いことをしているという自覚が生まれる。これから参加したいと思う人は、同じような市民団体があって、どこに行ったらよいのか迷ってしまう時に、外部から見分ける判断基準の一つとしてあるとよい。
委員	認定された団体には、補助金が出やすいとかインセンティブがあるとよい。実行性のあるものにしないと、何となく自己満足で終わってしまうのではないか。
委員	そうすると認定組織をどうするか。認定する団体があったらよいが、そこで集約するから組織があるとよい。
委員	TOMATOの団体になるにはどうすればよいのか。

委員	登録は誰でもできる。三役を立てて、規約を作って申請すればよい。審査が必要になる。毎年更新しているので、活動していなくても毎年更新したい団体は更新する。
委員	実際に団体が活動しているか、していないかの見分けのお墨付きでよいのではないか。
委員	コロナで実際活動が難しいとか、実際は高齢化のために継承できない団体もあると思う。TOMATOとして整理することはあるのか。
委員	年に1回登録の更新手続きが必要である。あまりに団体が増えすぎてしまったため、コロナ前（平成30年）から行っている。実際活動していないが、登録だけしたいという団体もあるかもしれないが、そこまでして活動している団体はないと思う。整理したときに、実際活動している団体が約200団体から100数十団体まで減った。 まちづくりの基本原則である①協働で行っている。②協議をしている③情報共有している④参画している。4つのことを団体内できちんと協議しているかどうかで認定するのはどうか。
委員	幽霊団体だが、更新している団体はあると思う。その他、コロナのために自粛している団体や、実際は活動したいけどできない団体もある。
委員	TOMATOが団体登録する時に、項目をクリアすると星がつくなど、というものがあるとよい。
委員	戸田市の市民活動はTOMATOがすべて管理しているのか。上戸田地域交流センター（あいパル）でも活動している団体はあるのか。
委員	TOMATOに登録している団体が、活動場所として上戸田地域交流センター（あいパル）を使っていることもある。
委員	企業や学生など有志で行っている団体があるが、そういう人たちをどうカバーしていけばよいか。

委員	企業で荒川の清掃をしている団体もある。自治基本条例に則って活動している団体であれば、認定ができるとよい。
委員長	団体の活動が認められることはすごくうれしいと思う。色々なルールの中で市民活動団体の登録が難しいこともあるが、それでもそれぞれの理念や信念で活動している。そのような団体に何かを認定することは、活動している人たちを励ますことにつながる。それが広まっていく可能性もある。
委員	T O M A T O に登録している人たちについては認定できるが、個人で活動している人たちに対しては、どのようにすればよいのかと思う。戸田市の市民活動はT O M A T O の登録団体だけではない。T O M A T O で活動している人たちとの差がでないように。そこで活動している人しか認められないとなるとよくない。
委員長	自治基本条例の中の市民の定義はものすごく広い。震災を経験したというプロセスがあって定義が広がっている。戸田に住んでいなくても市民の定義の中に入れば市民となる。
委員	特に団体登録はしていないが、活動している人達を救い上げていく仕組みがあるとよい。
委員長	市民活動についていろいろなご意見が出たが、もし、別のもので何かあったらご意見を伺いたい。
委員	<p>諮問をみると、前提として新型コロナウイルスによる社会状況の変化とは、どんなことがあったかという視点と、市民活動とは何かということ、どう市民活動を促進していくか、また、何をもって促進するのかを明らかにした方がよいのではないか。</p> <p>社会状況の変化で考えると、人と人のコミュニケーションが少なくなった。また、戸田駅の乗降者数が13.6%減っているというデータがあった。人数にすると、戸田駅で5700人位減っている。リモートワークなどで通勤が減り、市民の人たちが実は昼間戸田に留まっていることがあるのではないか。リモートワークなどで通勤もなく、残業もなく、夜の付き合いもなくなったので、逆に夜に活動できる時間ができたのではないか。</p>

	<p>平日の夜に勉強会や討論会などの機会をつくるのがよいのではないか。また、夜の時間を有効活用して、市内の施設はもう少し遅くまで開けていただき、そういう場を提供していただけるとよい。</p>
委員	<p>確かに平日の夜の方が時間を取りやすくなった。私もジョギングサークルなど、平日の夜に自分のために使える時間が増えた。そういった団体とつながることができればよい。</p>
委員長	<p>元々仕事で時間を取られていた平日の夜が、リモートワークのおかげで自分のために使える時間となったため、それを利用するのはどうか。</p>
委員	<p>夜の時間があるのは、おそらく女性よりも男性に多いだろう。特に日中仕事をしている男性である。そのような男性に、もっと市民活動に参加してもらいたい。同じ想いの同士の繋がりができると、広がっていくのではないか。</p>
委員	<p>きっかけとなる場がないため、なかなか活動できないのではないか。</p>
委員	<p>町会や子ども会では男性の担い手が不足していて、男性の力もほしいという意見がある。</p>
委員	<p>町会はまさに昭和を引き継いでいるという感覚があり、今のまま継続していくのは難しいのではないか。新しいスタイルでやっていかなければならない。</p>
委員長	<p>個人的に興味関心があることにつながれば波及していくのではないか。</p>
委員	<p>ワークライフバランスがコロナをきっかけに促進され、新たな活動をはじめの絶好の機会ではないか。</p>
委員	<p>町会会館をフル活用するのはどうか、という案が町会の方から出ている。例えば平日の夜にお父さんたちが集まってもらって何かできることはないか。</p>

委員	マンションは町会に入っていないことも多い。町会の組織で括ろうとしても無理がある。町会に入っていない人にコミットできない。
委員長	今まで、町会員にしか配られなかった広報が、今後は業者に委託して全戸配布にすることになり、町会に入っていない人でも平等に配布されるようになるのは素晴らしいことである。
事務局	広報は5月号から市で業者に委託して配布することになった。今までは、町会に加入していない人でも手に取りやすいように駅や公共施設、コンビニ、スーパー、銀行、郵便局などに置くようにしていたが、これからは市内の全戸にポスティングされるようになる。
委員長	黄色の地図も全戸に配布されるのか。
事務局	黄色の地図は町会発行のものであり、全戸配布の対象ではない。
委員長	ここまで、市民団体のこと、コロナ禍による社会状況の変化でできることについて話したが、いかがだったか。
委員	皆さんのお話を聞いて、コロナ禍での社会状況の変化の話はとても面白かった。平日夜の団体活動推進についてどうしたらよいかと思う。
委員	仲間を募って、夜にどこかで会おうよってことですよね。
委員	新しいネットワークを作らないと難しいのではないかと。既存の組織だと前に進んでいけない。町会の回覧版の手渡しによるコミュニティ形成もほぼなくなり、回覧版の意義について改めて考えた方がよい。
委員	町会の班長さんになると、1件1件集金にいき、近所の方とお会いする機会となっていたが、今はそれもなくなっている。
委員長	町会役員は地域の民生委員的な役割がある。
委員	町会の中で、災害時に高齢者に対するサポートをどうするのか、町会の回覧版で回ってきたことがあった。もし、災害が起きたら、協力していかなければならない。町会の力が重要になる。戸田は災害がな

	<p>いので危機感がない方が多い。災害がない間にそういったしくみを作っておく必要がある。</p>
委員長	<p>子育て世代の委員さんにご意見を伺いたい。</p>
委員	<p>子どもが店の販売員となり、報酬で地域通貨をもらう近所のイベントがあった。子どもたちも楽しんでた。 SNSの話がいくつかあったが、作っても使用されないことも多いので、戸田市の公式ラインなど、オフィシャルのものを利用してなにかできるとよい。 例えば埼玉県でやっているコバトンの万歩計アプリがあるが、そのような既存のシステムを利用して、何か考えるのはどうか。</p>
委員	<p>コロナによってリモートになり、生活スタイルが変わり、自由な時間を取り戻しているのかもしれない。欲しているものが実現可能になってきているといってもいい。会社潰けになっていた時間から解放され、何をするか一つのメニューではないか。</p>
委員	<p>知らせる、知るというのも大事である。時間の余裕が出来たので、活動をいつのタイミングでどういった方法でするかが次のテーマではないか。</p>
委員	<p>今回作成したリーフレットには、色々な情報を載せている。</p>
委員長	<p>議会の情報についてのリーフレット掲載については、議会から要望があったと聞いた。ありがたいことである。</p>
委員	<p>市議会議員は日頃から相談カフェなど、機会を提供している。講演会や支援者のみのルートではなく、市議会議員から情報のマッチングをしてくれるといいのではないか。</p> <p>《グループ討論まとめ発表》 諮問内容より、コロナを経験した私たちに今どうい変化が起きているかという話になり、コロナの経験は悪い面だけではなく、リモートワークが増えたことで日中に戸田にいる人が増え、新たな時間ができたのではないか。そうなると平日の夜に活動できる人も多いのではないか。</p>

	<p>いか。そういった人たちに対して、市民活動に参加できるきっかけづくりができれば、という話がでた。</p> <p>また、市民活動団体への具体的な支援について、団体運営に対して、ステッカーを作ったりして、基準をクリアすると団体への励ましになるような仕組みや認定するシステムができればよいのではないか。戸田市の既存システムを活用して団体の支援ができるような仕組みができれば、運用の継続も可能ではないか。</p> <p>以上2点が意見となった。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
副委員長	<p>(グループ2の内容)</p> <p>前回の答申が、資料にもあるとおり③つながる場が大事だというご意見がでていた。答申をみた市長からも大事だというご意見をいただいたが、抽象的な答申だと、いいね、で終わってしまう。そのため、今回はより具体的に示したい。</p> <p>コンテンツとして市長がやるか、他の誰かがやるか。YouTube チャンネルを作るか、Facebook をやるか。更新頻度をどうするか、など、具体的に示せば市長もやるかやらないかの判断をすることになる。そのため、具体的な中身について触れていければと思う。</p> <p>また、前回発言していなくても、もっと良い意見があれば発言していただきたい。委員の皆さんから具体的にご意見はあるか。</p>
委員	<p>実際に動くのは誰か。市役所がしくみとしてつくるのか。</p>
副委員長	<p>基本的には、市長に答申するので市長がやるという認識でいる。</p>
委員	<p>市役所目線ということか。</p>
副委員長	<p>市役所が主となってやるものもあれば、市民がやることを応援する、というものもあるとは思う。</p>
委員	<p>情報の発信でいうと、Twitter や SNS は若い世代の人には良いと思う。今現在も市の SNS はあり、興味のある人は市役所のコンテンツを見ている。ただ、興味のない人には全く関係ない世界になってしまっている。あまり関心のない人でも見てくれるようなコンテンツを考える必要があるのだと思う。若い人だけではなく、全世代に興味を引くよう</p>

	なものを考える。
副委員長	私は市が YouTube をやっていることを知らなかった。
委員	市長独自の YouTube チャンネルもあるが、関心がない人は見ないと思う。
事務局	市の YouTube は、例えば保育幼稚園課が説明会の代わりに、手続きの仕方を動画で説明するのに活用したりもしている。
委員	興味のレベルにもヒエラルキーがあって、全然興味がない人、少し興味がある人、とあると思う。全然興味のない人達に見てもらうのは大変なので、少し興味のある人をどう引き込むかを考えた方がよい。
委員	子どもがいる場所や若者がいる団体に周知して直接アプローチしていくほうが伝わるのではないかと。広く全体だと届かないことも多いので、個別にアプローチしていくのがよいのではないかと。
委員	そういう団体がどこにあって、横のつながりができているか。
委員	役所がそういう団体にどのようにアプローチしているのか。
委員	役所はみんな忙しくてできないだろう。そうするとやはり役所以外でやるしかない。
委員	あとは市民団体が関連するところ同士で、行けるような、案内し合えるような仕組みも大事だと思う。市役所からの周知だと限界を感じる。
副委員長	役所が大変だから、市民にやってもらうというのはある。そしてそれをもっと発信しなければならないのではないかと。今までは「やってあげる、やらしていただく」の行政から「やってください、やっていただく」なのだと思う。そして、具体的に何をやってほしいかをアピールしていく必要がある。
委員	最近 TOMATO のホームページがきれいになって見やすくなり、情

	<p>報が得やすくなった。難しいとは思いますが、将来的にそこで団体同士が つながるプラットフォームができればよい。</p>
副委員長	<p>団体同士がつながる場については以前から挙がっているが、具体的に どのような場か。例えばこども食堂をやっている団体は、協働で出来 れば、仕入れが安くできるとか発展ができると思う。そういった場が 欲しいというのは前からあったが、具体策にはどう提案するか。</p>
委員	<p>今は、こども食堂やこどもの支援団体など全部の団体がバラバラで関 係あるはずなのにつながりがない。本来は関連する団体なのに。</p>
委員	<p>市は団体の代表者を集めて横並びのつながりを作る。でもそれでは形 だけはできるがあまり意味がない。実践部隊が集まる場があるとよ い。いろいろな人たちが集まれる場の仕掛けができれば面白いと思 う。</p>
委員	<p>ボランティアをやりたい人と、ボランティア団体をマッチングさせる 仕組みを千葉県がやっている。個人が登録をすればやりやすい と思うが、この制度の存在を知らせることが難しい。検索しやすくす るとするのは大事だと思う。</p>
事務局	<p>戸田市でもTOMATOにボランティアをやりたいという連絡があ ると、ボランティア団体の案内はしている。 例えば、夏休みに高校生のお子さんにボランティアをやらせたいと、 保護者が連絡してくることもある。その時は団体を紹介したりしてい る。</p>
委員	<p>子どものボランティア需要はとともある。子どもに体験させたいとい う親もいる。子どもがやると親も一緒に参加する。子どもの成長に良 い、子どものためになる、などのメリットを伝えて参加を促すとよい。</p>
副委員長	<p>団体を検索しやすくするのは良いことだが、例えば市役所のホームペ ージを検索しやすくするとなったときには、市役所にやりなさい、と いうことになると思う。新たに何かやるというのは結局、市役所の負 担が大きくなると思う。今は何か業務を削って新たなことをやること になるのか。</p>

	<p>YouTube チャンネルをやるようになる代わりに、リアルの場をなくしたりしているのか。</p>
事務局	<p>どちらかという、プラスでやっているものが多い。コロナ禍でリアルをなくして始めたものもあるが、情報発信のツールとしてやっているものが多い。</p>
委員	<p>先程のボランティアのマッチングサイトについてだが、民間のサイトを活用した方がよいと思う。その方が、使い勝手もよいものを選べる。市で単独で持つより、よいところを選べばスマホですぐに検索出来、使い勝手がよい。そういうところに頼む方法もある。民間のサイトで、ボランティアのマッチングサイトがある。今後はもっと注目されると思う。実際どこがいいかは調べないとわからない。</p>
事務局	<p>市が単独でやるよりも、民間のサイトを活用するほうがよい。開発費用もかかるし、そういうものを使った方が使いやすい。</p>
委員	<p>どこをターゲットにしていくかについては多分全部の世代に当てはまるものはないと思っている。市の政策でも全部の世代に当てはまるものはない。それぞれの世代に合う方法があると思う。先ほどのボランティアのマッチングについては、市の市政に興味があり、やる気がある人だと思う。SNSやツイッターについて、市のYouTube は明らかにニーズのあるものだと思う。市民が興味のないことに関しては発信しづらい。興味がない人にも目を引くものがよい。お金がかかってしまうが、YouTube 広告とか、埼京線の広告を考えるとどうか。多くの方の目に入るの、個人の意見が入らず、どの世代にも見ていただくことができるのではないかと。</p>
副委員長	<p>埼京線の広告とはどういうものか。</p>
委員	<p>埼京線の中で、映像が流れている電子の広告である。目に入ってくるものなので、そういうのがあると良い。</p>
事務局	<p>今やっているかはわからないが、yahoo の広告を使った転入者向けの取り組みをしたことある。例えば、家を探すときに戸田市と検索する</p>

	と、バナーがでるようなしくみで、戸田市に興味を持ってもらう狙いであった。どれくらいアクセスがあったのか手持ちの数字はないが、結果的にアクセス数が結構あった。
委員	YouTube 広告は、地域も絞り込んで設定することができる。
委員	興味がない人も無意識に見てもらうことができる。
委員	大学が戸田にあれば、もっといろんなアプローチができるが、高校が2校あるだけなので、なかなか難しい。
委員	YouTube は若い人向けである気がする。特に男性たちは、ネットで批判するだけでなく、もっと地域と関わる必要があると思う。
委員	自分もこの仕事をしていなければ、地域と関わることもなかったかもしれない。定年後に地域と関わりをもつことが必要かもしれない。
副委員長	戸田市内の企業に対しては、こういう活動をしましょうという話ができる。
委員	戸田市内の会社との連携がとれたらよい。町会の活動にもつながっていくのではないかな。
委員	もし、戸田市でそういう動きができると、市外で働いている人も退職後やってみようかという人もでてくるかもしれない。
委員	みなさんのおっしゃるとおり、地域とのつながりを持つことは大事だ。戸田は、根っからの戸田の人と全然地域のつながりがない人がいる。定年後全くやることがなくなってしまう人は多い。元気になれるような繋がりを作る事が大切だと考える。都心に行くと都心は都心なりに充実していたりする。戸田市は中途半端な都市なのかもしれない。
委員	戸田市は、県内でみると全体では医療費がかかってないが、高齢化医療では一番医療費がかかっている。

委員	<p>地元の企業とのつながりが弱い。例えば焼津市は市内に企業が約 1000 社あり、様々な企業とのつながりがある。戸田らしいものはいかがか。ふるさと納税についてはどうか。</p>
事務局	<p>市内に企業がたくさんあるわけではないが、ふるさと納税で人気のあるものはいくつかある。市内の印刷会社などがふるさと納税に応募している。</p>
委員	<p>寄付を求めるだけでなく、仲間としてつながりを持つべきである。企業になかなかアプローチできない。</p>
委員	<p>企業も地元で生きていくしかない。</p> <p>《以上でグループ討論終わり》</p>
<p>《グループ討論まとめ発表》</p> <p>まず、関心がある層、少し関心がある層、無関心の層に分かれていると感じた。無関心な層にどうアプローチしていくか。無関心の人にどう興味をもってもらうかに関しては、無関心な人に対して、YouTube 広告や SNS、ツイッターなどの検索ワードに応じて、広告がでるようなインターネット広告を活用する。特に YouTube は、地域ごとにターゲットが決められるので活用してはどうか。</p> <p>少しでも興味のある方については、色々な団体、子ども食堂や子どもを支援する団体、子どもの集いなど、若者がいるイベントに直接アプローチすることが効果を高められるのではないかと。</p> <p>ボランティアについては、子どもが参加することで、大人も参加して参加の意識が高まると思う。</p> <p>例えば、子ども食堂などの子ども支援団体は、なかなか横のつながりが無い。お互いに周知啓発をすることで参加者が増えればよい。</p> <p>ボランティアについては、民間のボランティアマッチングサイトを活用するのがよいのではないかと。スマホで検索しやすいのがよいのではないかと。</p> <p>戸田市は健康寿命が県内で最下位である。特に男性の健康寿命が低い。原因として、地域で活動しないことがあるのではないかと。</p>	
<p>《グループ討論まとめ発表》</p>	

	<p>定年後の男性にアプローチするためには、中小企業や市内の企業が定年後も活躍できるしくみを作ることが必要だという話があった。市内の企業や商工会などを通じて、アプローチができたらと思う。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>委員長</p>	<p>今回の答申は、実行性のあるものにしていければよい。 市長がこの答申を受けた時に、すぐに関係各課に指示できるような実行性のあるところまでできればよい。 右から左に流れていかないように、次回さらに掘り下げていく。 より精度の高いものにしていく。次回はまたメンバーを変えて、さらに議論を進めていきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>4 事務連絡</p> <p>次回の推進委員会については令和5年4月中旬以降に開催予定である。</p> <p>5 閉会</p>